

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(さくらんぼユニット)

事業所番号	2795000146		
法人名	社会福祉法人 大和福寿会		
事業所名	グループホームオアシスキズリ		
所在地	大阪府東大阪市衣摺2丁目9番13号		
自己評価作成日	平成31年4月22日	評価結果市町村受理日	令和元年9月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	令和元年7月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・「安心健康を提供します」を法人理念とし、毎日朝礼時において職員全員で唱和し、実践に向けての共有を図っている。</li> <li>・家庭的な雰囲気の中、個人の人格、心情を尊重し、その人らしい生活が送れるように支援しています。</li> <li>・地域や家族様の協力を得ながら、四季折々のイベントを開催。又職員との買い物や、散歩、調理等、充実した生活が送れるよう取り組んでいます。</li> <li>・主治医との連携を密にし、健康管理に努め、急変時の体制も整っている。</li> <li>・防災避難訓練においては、地元消防団協力を頂き、有事の際に力強い関係ができております。</li> </ul>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>経営母体の「オアシス」は、医療法人隆星会、社会福祉法人大和福寿会の2つの法人から成り立っており、特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、グループホーム、デイサービスセンター等多数の介護施設を運営している。当事業所は開設して10年になるが、キャリアアップ制度の充実、職員の良い関係性等働きやすい環境が整い、職員の離職率が低い。事業所は3階建ての2、3階部分で、利用者一人ひとりの居室や共有スペースが広くゆったりしており、開放感を感じられる。1階は同じオアシスの別法人のデイサービスセンターになっており、時々午後からグループホームの利用者が出向き、デイサービスの利用者や歓談したりレクリエーションを楽しんでいる。かかりつけ医の協力のもと、家族の意向があれば積極的に看取りを行い、20例以上の実績がある。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者の</li> <li>2. 利用者の2/3くらい</li> <li>3. 利用者の1/3くらい</li> <li>4. ほとんど掴んでいない</li> </ol>	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての家族と</li> <li>2. 家族の2/3くらいと</li> <li>3. 家族の1/3くらいと</li> <li>4. ほとんどできていない</li> </ol>
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 毎日ある</li> <li>2. 数日に1回程度ある</li> <li>3. たまにある</li> <li>4. ほとんどない</li> </ol>	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ毎日のように</li> <li>2. 数日に1回程度</li> <li>3. たまに</li> <li>4. ほとんどない</li> </ol>
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ol>	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 大いに増えている</li> <li>2. 少しずつ増えている</li> <li>3. あまり増えていない</li> <li>4. 全くいない</li> </ol>
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ol>	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての職員が</li> <li>2. 職員の2/3くらいが</li> <li>3. 職員の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ol>
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ol>	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ol>
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ol>	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての家族等が</li> <li>2. 家族等の2/3くらいが</li> <li>3. 家族等の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどできていない</li> </ol>
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ol>				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「安心・健康を提供します」を法人理念としオアシススタンダードの運営方針、行動原則、職務心得。オアシスプライオリティの挨拶、清潔、整理整頓を毎朝職員で唱和し実践に繋いでいる。	事業所独自の理念は作成していないが、「安心・健康を提供します」という法人の理念をはじめ、運営方針、行動指針、職務心得を毎日朝礼時に職員で唱和している。理念や行動原則をオアシススタンダードとして、手持ち用の文書にして全職員に配布し、常に理念の確認ができるようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の自治会や育成会主催の、盆踊りや餅つき大会、秋の文化際には作品を出展する等積極的に参加している。又ホームのイベントに協力して頂いたりと常に交流の場を設けるように努力している。	月1回ハンドマッサージや折り紙、傾聴のボランティアに地域の人に来てくれ、中学生の職場体験も受け入れている。避難訓練時には地域消防団の人も協力してくれる。自治会に加入し、夏祭りや餅つき大会に参加しているが、地域の高齢化もあり、祭りに参加する人が年々減ってきている状況である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所の実戦経験を活かし、地域の人々やご家族の、困っている事や思いを聞き、助言をしている。地域運営推進会議においては、相談を受けたり認知症高齢者の理解を深めて頂くよう努力している。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の自治会役員、包括支援センター職員、入居者代表、入居者家族、オアシス東大阪事業の各管理者を構成員とし2か月に1回開催している。ホームの利用状況の意見交換や活動報告を行い、構成員と意見交換、情報交換を行い、実地指導結果、外部評価結果を公表している。	運営推進会議は自治会長、同副会長、地域包括支援センター職員、利用者、家族等が参加し、奇数月の最終金曜日に定期的に開催されている。できるだけ沢山の人の意見が聞けるよう、家族代表は毎年交代して参加してもらっている。議事録は家族に配布してはなかったが、郵送するか、閲覧できるようにするか、現在検討している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運用や制度に関する事等、必要に応じて相談を行い、指導して頂き、協力関係を築いている。	法人は複数の施設を有しているため、制度に関して分からないことは法人内で完結しており、役所に積極的に相談することは少ない。施設ごとに、提出する書類に関する事で役所に相談したり、福祉事務所の職員の訪問が定期的であり、利用者のサービス利用状況を伝え、協力関係を築いている。	市の主催する施設部会への参加や、事業所の運営、課題について積極的に情報を伝えたり相談する機会が少ないように感じられる。日頃から役所に赴き、積極的に協力関係を築くことを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者の自由な暮らしを支え、入居者や家族に心理的圧迫感を与えない配慮や身体拘束について、職員が学び理解し拘束しないケアを行うようにしている。	身体拘束適正委員会を設立し、会議を定期的に開催している。身体拘束の研修は年に2～3回実施しており、職員は身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。利用者に対して、言葉による拘束や不適切な対応が見受けられた時には、管理者や計画作成担当者が注意して改善を促している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	オアシス内部で虐待についての研修を行い、職場環境を整え、職員がストレスを感じないように配慮している。普段の行において虐待を見過ごすことなく、意識している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修やホーム内の実際の事例を通して、会議等で職員が学ぶ機会を設けている。必要であれば地域包括支援センターと連携し、活用できるように心得ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時に時間をかけ説明している。質問があれば説明を行い、理解と納得を得ている。契約後においても、質問があれば再度説明を行い、納得して頂くように心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設置し意見を取り入れるようにしている。運営推進会議に家族や入居者に出席して頂き、ご意見やご要望を聞き運営に反映させている。又家族会において、気軽にご意見やご要望が聞ける環境作りをしている。	家族からの意見や要望が積極的に聞き取れるように、玄関に意見箱を設置している。家族から処方薬のことにに関して意見があったため、かかりつけ医と相談して改善につながったという事例がある。もらった意見に対しては、どのように改善したのかを家族に伝えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回会議を行い、改善点や提案を聞き、意見を取り入れている。必要に応じその都度意見を聞き職員全員で検討し運営に反映できるように取り組んでいる。	月1回運営に関する職員会議を開催している。毎回ではないが、会議には法人関係者が参加し、職員から出た意見や要望が運営に反映できるように努めている。勉強会や研修の実施、研修費用の立て替え等、キャリアアップのための環境が充実しており、職員は資格取得に前向きに取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	入居者の担当やその日のリーダーを設け、仕事の内容を明確にしている。職員それぞれが自己実現できる職場であるように心がけている。又資格修得を奨励しやりがいや向上心をもって働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日々の業務の中で、職員がレベルアップできるように管理者が中心となって、指導している。オアシスグループ内の研修は充実しており、委員会、勉強会の参加は積極的に行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との連携、交流は行っていない。今後交流できる機会を持てるように、努力し質の向上を図る必要があると思われる。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前に、ご本人やを家族の思いを把握し、不安なく入居できるようにしている。職員は事前にミーティングを行い、本人や家族のおもいを理解し、スムーズにサービスが開始できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に困って居る事、不安な事、ご要望等を聞き確認させて頂いている。心配な事不安なことがある場合は、入居後であっても説明させていただき、信頼関係が保てるように努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前にご本人、ご家族と面談を行い、必要とされている、サービス等が導入できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は高齢者を尊重し、笑顔を絶やさず入居者の立場に立ち、喜びや楽しみが共感できるように支援、している。又入居者が好きな事できる事に目を向け、共に支えあう環境を作っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	きずり通信を毎月発行し、日々のご様子をお知らせしている。近況報告やケアに対する相談を行い、共にご本人を支えていくように努めている。又家族の都合に合わせ、外出や外泊も自由に行ってもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の行事に参加したり、施設の行事に参加を呼びかけ実行している。入居者の希望で馴染みの理髪店を利用したり、家族の協力で行き慣れた病院で診察が受けられるように支援している。	事業所の近くから入居した利用者があり、友人や近所の人々が数名面会に来てくれている。家族の支援で近所の馴染みの理髪店に行ったり、職員が散歩の途中に従来からの歯医者さんに同行したりしている。また、1階にある別法人のデイサービスセンターに行き、その利用者と一緒に歓談したりして、新たな人との関係性ができている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員と良好な関係が保てるように支援している。不穏な状態があれば、入居者家族の承諾を得て、居室やテーブル席の変更を行い、孤立しない支援を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所に移られても、必要な情報は提供している。退去後はいかれた所に訪問しご本人の状況把握をしたり相談に応じる等、関係が切れないようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人一人にかかわる時間を持ち、それぞれの思いを理解し、安心して生活が送れるように支援している。困難なことが起これば、ご家族と職員が話し合い、その人本位に解決するように努めている。	職員は、日々の生活の中での利用者の表情や仕草から、希望や意向をくみ取るようにしている。入浴時にはリラックスして、色々話をしてくれるので把握しやすい。判断が難しい場合にはサービス担当者会議で、家族から得た情報をもとに、本人本位に生活ができるよう検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にアセスメントを行い、ご本人やご家族、担当ケアマネから情報を収集している。入居後もできる限り、今までの生活や暮らしを変えないよう、職員全員が情報を共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らしの状況を観察し記録している。一人ひとりの状況を朝礼、終礼時に報告し職員同士で連携を取り合い、入居者の状況を把握できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人や家族の意向を聞き、その情報をカンファレンス職員全員で検討しサービス計画書を作成している。サービス計画書を作成後は	サービスが計画書通りに提供されているか、新たな課題が生じていないかを毎月モニタリングしている。計画書作成時のサービス担当者会議には、必ず家族にも参加してもらい、本人、家族、職員、医師の意見を反映させ、サービス開始前には本人、家族の同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録あ連絡票を活用し、気づいた点や問題点を記録している。ケア内容の変更が必要な場合は、再アセスメントを行い、サービス担当者会議を行い、計画書の変更と職員への周知を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人や家族の希望により、協力医療機関の通院援助や、必要に応じその他の医療機関にも通院援助を行っている。希望があれば保険外サービスも利用できるように取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアの協力を得ながら、傾聴やレクリエーションを行っている。又 心身の状況が維持でき、安心、安全に暮らしているよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にご本人、家族の希望を聞き取り、かかりつけ医を選定している。それぞれが連携を取りながら関係を築き、本人に合った適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医の選定には、本人や家族の意向を優先している。しかし、入居が長引いてくると、事業所の協力医療機関をかかりつけ医とし、月2回の往診を受けている。歯科については、ごく近くの協力医療機関に職員が同行して受診を支援している。他科については、家族が同行して受診し、結果を必ずフィードバックしてもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	主治医による、訪問診療、居宅療養管理指導を毎週受けている。看護師は入居者の健康管理を行い、受診や看護が受けられるように支援している。介護士は日頃の状態を看護師に報告し相談したり、指導を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は介護サマリー等を用い、施設での生活状況を報告し安心して治療が受けられ早期に退院できるように努めている。又病院のMSWや関係者と連携を取り情報交換を行い、良好な関係が保てるよう努力している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人、家族、主治医と話し合い希望に沿った方向に決めている。入居時は「重度化した場合における対応に関する指針」を作成し同意を得ているが、将来に不安を抱えている家族には、その都度説明させて頂き、意見や意向を聞かせて頂いている。	契約時に、「重度化した場合における対応に係る指針」を利用者、家族に丁寧に説明し、同意を得ている。事業所でも充分研修をして看取り体制はとれている旨を説明し、かかりつけ医の判断やその時の家族の要望が一致すればホームで看取っており、過去20例を超えている。しかし、家族の要望も変わるケースがあり、その都度話し合って対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	協力医療機関の医師より指導を受け、事故発生時や緊急時に対応できるようにしている。夜間の事故や緊急時には管理者の支持が受けられるよう、体制ができています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災避難訓練を行っている。全職員に災害時の避難訓練がスムーズにできるよう訓練をしている。地域消防団に参加して頂き、地域との協力体制を図っている。	火事、地震、風水害等の災害それぞれの避難マニュアルを作成している。事業所で火災が発生した場合を想定し、年2～3回の避難訓練を実施している。職員だけで利用者を避難誘導することは不可能なので、地域消防団の応援がすぐ得られるよう、話し合い中である。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格やプライバシーを尊重しその人らしく生活が送れるよう、言葉使いやそのケア方法に配慮している。	利用者から色々教えてもらうこともあり、利用者に対しては、常に尊厳の気持ちを忘れずに接している。しかし、職員も多忙な時があり、つい言葉による拘束をしがちであるが、職員会議でも取り上げ、管理者が注意して改善している。	利用者の生活ペースは遅く、職員も多忙で、つい言葉による拘束をしがちなのは分かるが、近くにいる職員がアドバイスできるようなチームワークも生まれつつあるようで、是非職員を育成して改善して欲しい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ゆっくり時間をかけコミュニケーションをとり本人の思いや希望を傾聴し自己決定ができるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者を中心に考え、それぞれの生活ペースを大事にし、希望に沿った援助ができるように心得ている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回訪問理美容を利用している。それぞれ希望のヘアスタイルにして貰っている。衣類はご本人に選んで頂き、気に入った服装ができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食、夕食は老健オアシスの管理栄養士が立てた献立の配食を利用している。又職員手作りの朝食を提供している。オヤツは職員と入居者が一緒に作れる機会を設けている。	朝食は職員手づくりのものを提供している。昼食と夕食は、老健オアシスの管理栄養士が献立を立て、でき上がったものを提供してもらっている。食事形態については、本人をよく知る事業所で整えている。職員も同席して同じものを食べ、感想を言い合ったりして場を和ませている。外食や行事食も楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	老健オアシスの管理栄養士が献立を立てバランスの取れた、食事提供ができています。食事ごとに接種量の記録を行い、医師の指示があれば水分量の記録も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアをそれぞれの自立度に合わせ援助をしている。歯科医と連携を取りながら口腔ケアの指導、管理、治療を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツやパットに頼ることなく、それぞれの排泄のサイクルに合わせて、随時トイレ誘導を行っている。失敗をなくし、気持ちよく排泄ができるように支援している。	排泄チェック表や利用者特有の仕草を見逃さず、各利用者の排泄パターンを把握する努力をして、早めにトイレ誘導している。トイレできっちり排泄できたことは利用者にとっても大きな喜びであり、改善につながった例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分量に気を付け便秘の予防として毎朝牛乳を飲んで頂いたり、ヨーグルトを食べて頂くなどの土呂久身を行っている。自然排便のない方は主治医の処方により服薬にてコントロールをしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	必要であれば随時と考えているが、基本は週2回行っている。拒否のある方については、無理強いをせず、気分の良いところを見計らい入浴できるように支援している。	基本的には週2回の入浴を支援している。入浴時は利用者が最もリラックスする時でもあり、会話を弾ませてそれとなく利用者の本音を聞き出したりしている。季節感を感じる菖蒲湯やゆず湯も楽しんでいる。入浴拒否の利用者については、担当を替えたり、時間をずらしたりして入浴してもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	そのひとそれぞれの気持ちを理解し、安心して就寝ができるように心がけている。不眠の方がおられる時は、飲み物を提供したりそばにつき添いお話をしたり、眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤管理は職員が行っている。薬事情報提供書を用い、効能や副作用について理解するよう努めている。分からない事があれば主治医に確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の生活歴を踏まえ、趣味や特技を取り入れ、午前は個別に机上訓練や身体機能訓練を行い、午後からは全員で楽しめるレクリエーションを行っている。他社との交流を深めたり、楽しんで頂けるよう工夫をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎月の行事にお花見や遠足を取り入れ、スーパーへの買い物や、外食会の支援も行っている。気候の良い時期は近くの公園へ散歩に行く等、他者との交流を図るようにしている。	外出は、季節感を感じてもらい、歩行リハビリともなり、近隣の方々と挨拶を交わしたりする機会なので、最も大切な支援の一つと考えて外出を支援している。歯科受診コース、普通の散歩コース、買い物コース、外食コース等色々なコースを設定している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金は預からず、立替としている。ご本人が希望するものや必要なものは家族と相談を行い、満足して頂けるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望するところに電話がかけられるようにしている。外部からかかってきた電話はご本人ん取次を行い、手紙やハガキが自由に出せるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングに職員と入居者が共同で作成した壁画が毎月飾られ、四季を感じて頂き、家庭的な温かい雰囲気が出せるように心掛けている。	リビング兼食堂や廊下、居室等共用空間は、大変広くゆったりした感じを受ける。共用空間の壁面には、利用者の作品や季節感を感じる花等が少しだけ飾られ、簡素で落ち着きを感じる。大きなソファも設置され、利用者のコミュニケーションスペースとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのテーブル席では、馴染みの関係が構築でき、ホームに設置しているソファ入居者同士が触れ合い、会話を楽しんでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用されていた、馴染みの家具や好みの物を持ち込み、それぞれが居心地良く過ごしている。	居室も約12㎡あり、大変広い。そして割合簡素である。家族の努力で、今までの自宅での生活の延長感を感じるように、利用者が使い慣れた日用品や家具類を持ち込んで、落ち着いて生活している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、トイレ、浴室には分かりやすいように表示をしている。廊下には手摺を設置し安全にも配慮し自立した生活が送れるように支援している。		